

## 北総の愛染明王塔&二十六夜塔

### はじめに

愛染明王塔信仰については、本会の三代川千恵子副会長が、『日本の石仏』No.160 (2016) 特集「生業の守護神」に、「石像愛染明王塔の庶民信仰の流れを追って—江戸・甲州・下総の事例から」を書かれています。

この報告では、中世の武士・修験者の守護神から、近世になって生業の守護神に変化する愛染明王信仰の実態を石造物から調べられ、特に江戸の藍染業者の信仰と、甲州の養蚕や織物業者の二十六夜月待信仰の実態を述べられて、最後に下総農民の二十六夜と愛染明王に関連する石造物について船橋市と八千代市、隣接する佐倉市と旧印旛村所在の36基の一覧表を提示、さらに二十六夜待の本尊が愛染明王である根拠として、「修験深秘行法符咒集」にその記述があることを明かされておられました。

この論考に心惹かれて、私も二十六夜塔と愛染明王塔について調べてみたくなり、各地域の石造物調査報告書などを参照して、現地確認の探索を続けています。

### (1) 北総の二十六夜塔&愛染明王塔集成

現在総数は82基。市町村別内訳は、八千代市20、船橋市10、旧印旛村10、旧佐原市10、我孫子市8、佐倉市6、旧本埜村4、成田市4、旧印西町3、旧小見川町2、東庄町・酒々井町・松戸市・富里市・習志野市が各1で、悉皆調査されている市川市・白井市・千葉市・四街道市・芝山町・横芝光町・干潟町は各0でした。

紀年銘では、寛文から宝永までの江戸前期が11、享和までの中期が24、後期が27、近代が14、戦後から現代までが3、不明3です。

うち、二十六夜塔は68基（愛染明王像9基・「愛染明王」銘または種字11基・他の仏像9基、石灯籠1基）で、そのうち二十三夜塔など他の月待塔を兼ねるのは5基でした。二十六夜塔以外では、愛染明王供養塔13基（愛染明王像9基、銘または種字4基）、時念仏塔（愛染明王像）1基でした。

二十六夜塔に主尊として愛染明王が現れるのは、佐倉市城の元禄5年（1692）銘塔（No.5）からです。

一方、旧佐原市の二十六夜塔10基のうち、前期と中期の8基は地蔵・観音菩薩・阿弥陀如来が主尊で、愛染明王が主尊であるのは、文化6年銘の1基だけでした。

銘文から女人講主体とわかる二十六夜塔および愛染明王塔は12基です。江戸中期では印西市1基。江戸後期では印西市が3基、船橋市が2基、富里市と旧佐原市が1基、近現代では八千代市が4基で、他に女人講塔群にあって女性の講と推定されるのは5基でした。また、「若者中」銘の二十六夜塔1基が幕末の八千代市に見られました。

なお主尊名「花染命」の二十六夜塔（文久3年銘 No.60 旧印旛村にありました。

### (2) 特色ある二十六夜塔&愛染明王塔

江戸時代前～中期中葉までは、我孫子市・佐倉市・旧印旛村の古城址近辺の旧村に愛染明王像刻像塔が多く、中期後葉からは、成田街道や御成街道沿いなどの街や農村に「二十六夜」の文字塔が広がっていきます。

その中で、優れている像塔と代表的な文字塔を紹介します。

#### ① 印西市平賀の延宝2年銘時念仏塔（No.3）

『続房総の石仏百選』で早川正司氏および『日本の石仏』No.160の三代川さんの著述に紹介されている愛染明王像塔で、大日如来石像の脇侍と推定されます。

「供養之衆二世安楽処／奉造立愛染明王時念仏」の銘および女性を含む百三十人以上の人名が刻まれていて、像容は珍しい立像です。

#### ② 佐倉市城円城寺跡の元禄5年銘二十六夜塔（No.5）

光背型愛染明王坐像に「奉造立愛染明王／二十六夜講同行廿二人」の銘が刻まれています。

円城寺跡は、その名も「城」という地名にある「城城」を拠点にした中世前期の六崎氏、中世後期の原氏と並ぶ千葉氏の重臣「円城寺」氏のゆかりの地で、千葉と本佐倉城・白井城を結ぶ「佐倉街道」（県道65号線）の中間地でもあります。

#### ③ 船橋市高根町観行院の貞享5年銘二十六夜塔（No.20）

笠付角柱型文字塔で、愛染明王の種字「ウーン」と、「婦命月廿六夜葛飾郡下総国高根村／大旦那貞享五天辰二月廿六日中興尊恵／願主藤次郎」ほか10人の人名が刻まれています。

④ 成田市奈土昌福寺の明和7年銘愛染明王塔 (No.24)

愛染明王の姿の特徴は、「一面三目・六臂で、頭上には獅子の冠を頂き、冠の上には五鈷鉤が突き出ている、その身は赤色で宝瓶の上にある紅蓮の蓮華座に、日輪を背にして座る」という。この明王像は円形の日輪に浮彫ですが、丸彫りに近く、蓮華座と宝瓶は立体的、さらに蓮弁の反花座と格狭間を施した台石に載る本格的な構造の石像です。

『房総の石仏百選』に、田中英雄氏が紹介され、東光寺廃寺跡から、施主の金岡家の昌福寺境内墓地に移設されたと記載されています。

⑤ 八千代市上高野の文化8年銘愛染明王塔 (No.40)

文化8年(1811)～天保9年(1838)の間に、船橋市本町道祖神社(No.37)・佐倉市松林寺・八千代市上高野・佐倉市井野千手院・酒々井町上本佐倉神明大神社(No.44)・富里市中沢昌福寺(No.48)・船橋市夏見日枝神社(No.49)には、儀規の図像による細密な愛染明王像を浮彫した類似の像塔が建立されています。

いずれも軟質の石材を使用しているため現状不良のものが多い中で、八千代市上高野と酒々井町上本佐倉の像塔は、祠内に安置されていたため保存状態がよく、繊細な浮彫像が残されています。

⑥ 印西市瀬戸の子育地蔵尊の明治10年銘道標付き二十六夜塔 (No.65)

安永8年銘の印西市荒野の塔から明治18年銘の八千代市高本八幡神社の塔まで、道標付き二十六夜塔が6基あります。

その中でも、瀬戸の二十六夜塔は流麗な書体で「二十六夜塔／講中廿一人／よしたか／なりたみち／さくらみち／かまかり／東京道」銘が刻まれた角柱型塔です。

3) 愛染明王に人々は何を祈ったのか

愛染明王は「煩惱即菩提」、すなわち愛欲を浄化させ覚りへと導く明王とされますが、愛染明王に人々は本来何を祈ったのでしょうか。

北総の愛染明王塔で、その功德が明確に記されていたのは、成田市奈土の昌福寺墓地にある明和7年(1770)銘の愛染明王塔です。その基礎には「四海泰平／風雨順時／金輪聖皇／寶祚長遠／台樹殿下／當所領主／武運長久／家門安全／子孫長栄／如意満足」の願文が10行で記されていました。「寶祚長遠」の「寶祚」とは、天子の位のことです、『太平記 十七』に「もっぱら寶祚の長久を祈り」との記述がある)



No.3 印西市平賀 1674



No.5 佐倉市 1692



No.20 船橋市 1748



No.24 成田市 1770



No.40 八千代市 1812



No.65 印西市 1877

江戸後期～近代、恋愛・縁結び・家庭円満を司る仏として、また都市部では染物業や水商売の女性の信仰を集めたといわれますが、「愛染法」は本来、息災、利益、降伏、敬愛を修する法でした。特に中世では戦勝、息災の修法が盛んであったといわれます。

愛染明王への祈願で歴史上有名なのは、文永（1271）弘安（1281）の国難に際して、西大寺の叡尊が「末世の凡夫 誠心有難きゆえ諸願また成りがたし 秘密威法を仰ぐにしかず」と岩清水八幡宮に念持仏の愛染明王像を運び、「東風をもって敵船を本国に送り、乗人を損傷することなく、乗船を焼失させ給うように」と祈ったことでした。そして「神風」が吹いて元寇が撃退された際、愛染明王像の持つ鏑矢が西を指して飛んで蒙古を滅ぼしたといわれ、この靈驗譚は広く流布しました。（叡尊ご自身は「モンゴルの民に死傷者がでたことは、自分の祈りが足りなかった」と気落ちされていたとのことです。）

また戦国時代に造像された旭市野中の長禅寺の愛染明王像の胎内には「永禄 8 年（1565）、村が放火で焼き払われ、寺も炎上、さらに寒波で五穀は稔らず、五ヶ村の餓死者千余人。農民の呻吟の中、翌年に寺を再興、十二年愛染明王像が完成した」との墨書銘が残されていました。（小笠原長和『中世房総の政治と文化』）

奈土の昌福寺の愛染明王塔の銘文からは、戦国期の土豪がそのまま近世の有力農民になった下総の農村部において、地球規模の泰平から、天皇、領主、家と子孫の長栄と祈願するという世界観で、祈っていたことがわかります。愛染明王への祈りには、個人の現世利益を超えて、自然や国家、民衆の生活の危機に際し、より強い法力を求める共同体の悲願がその基本にあったのだらうと思いました。



### 千葉県のアザンミョウタとニジュクヤタ 一覧表

	西暦	年号	信仰	像容 or 主尊銘	所在市	所在地
1	1662	寛文 2-11-20	二十六夜塔	聖観音菩薩	旧佐原市	岩ヶ崎 密蔵寺
2	1667	寛文 7-7-吉	二十六夜塔	如意輪観音	旧佐原市	竜性院跡
3	1674	延宝 2-10-8	時念仏塔	愛染明王	旧印旛村	平賀 仁王尊
4	1682	天和 2-10-	二十六夜・廿日・十九夜塔	銘「阿弥陀」	旧小見川町	木内区民センター
5	1692	元禄 5-9-26	二十六夜塔	愛染明王	佐倉市	城 円城寺跡
6	1692	元禄 5-11	二十六夜塔	勢至菩薩	旧佐原市	石納結佐大明神
7	1702	元禄 15-10-26	愛染明王供養塔	愛染明王	佐倉市	大佐倉麻賀多神社
8	1705	宝永 2-11	二十六夜塔	なし	旧佐原市	大戸・地福寺
9	1708	宝永 5-11-26	愛染明王供養塔	種字ウン	八千代市	村上宝喜作台不動堂
10	1709	宝永 6-3-吉	二十六夜塔	地藏菩薩	旧佐原市	又見・惣持院墓地
11	1711	宝永 8-2-26	二十六夜塔	なし	東庄町	羽計吉祥院
12	1723	享保 8年	二十六夜塔	愛染明王	成田市	寺台 560 永興寺
13	1725	享保 10-11-吉	二十二・二十六夜塔	観音菩薩	旧佐原市	竜性院跡
14	1727	享保 12-2-26	二十六夜塔	阿弥陀如来	旧佐原市	毘沙門堂
15	1727	享保 12-11-吉	二十六夜塔	阿弥陀如来	旧佐原市	毘沙門堂
17	1746	延享 3-10-26	二十六夜塔	地藏菩薩	旧佐原市	遍照院跡
18	1746	延享 3年	二十六夜塔	愛染明王	我孫子市	中峠 宝照院
16	1746	延享 3-11-吉	二十六夜塔	種字ウーン	船橋市	豊富町路傍
19	1748	寛延元年	愛染明王供養塔	愛染明王	我孫子市	中峠不動尊

20	1748	貞享 5-2-26	二十六夜塔	種字ウーン	船橋市	高根町観行院
21	1755	宝暦 5-2-15	二十六夜塔	なし	旧小見川町	北小川安産神社
22	1761	宝暦 11-10-吉	愛染明王供養塔	愛染明王	我孫子市	中峠不動尊
23	1767	明和 4-1-15	二十六夜念仏塔	石灯笼	旧印旛村	平賀 仁王尊
24	1770	明和 7-5-吉	愛染明王供養塔	愛染明王	成田市	奈土 昌福寺
27	1779	安永 8- 1-吉	二十六夜塔	銘「愛染明王」	我孫子市	日秀観音
25	1779	安永 8年	二十六夜塔	なし	成田市	飯田町 4 9 0 路傍
26	1779	安永 8-11-26	二十六夜塔道標 付き	なし	旧本埜村	荒野 549 路傍
28	1780	安永 9-2-26	二十六夜塔	地藏菩薩	旧本埜村	中根鳥見神社
29	1790	寛政 2年	二十六夜塔	銘「愛染明王」	我孫子市	緑 1 丁目香取神社
30	1793	寛政 5-11-吉	愛染明王供養塔	銘「愛染明王」	八千代市	村上 博物館入口
31	1794	寛政 6-11-大 吉	二十六夜塔	銘「愛染明王」	我孫子市	新木 葺不合神社
32	1797	寛政 9年	二十六夜塔	銘「愛染明王」	我孫子市	布佐台稚児大師
33	1798	寛政 10 午年	二十六夜塔	馬頭観音	船橋市	夏見町六丁目馬頭塚
34	1800	寛政 12年	二十六夜塔	なし	成田市	関戸共同利用施設
35	1803	享和 3-10-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	米本 字逆水
36	1809	文化 6-11-26	二十六夜塔	銘「愛染明王」	旧佐原市	下宿・風神
37	1811	文化 8-6-吉	愛染明王供養塔	愛染明王	船橋市	本町四丁目道祖神社
38	1811	文化 8-2-吉	二十三夜・二十 六夜塔	なし	旧印西町	木戸脇宅地
39	1811	文化 8-7-26	廿六夜塔	愛染明王	佐倉市	弥勒町松林寺
40	1812	文化 9-11-吉	愛染明王供養塔	愛染明王	八千代市	上高野火の見下
41	1815	文化 12-11-26	二十六夜塔	なし	八千代市	下高野道祖神社
42	1818	文政元年	二十六夜塔	なし	船橋市	中野木町墓地
43	1818	文化 15年	二十六夜塔	愛染明王	佐倉市	井野 千手院
44	1827	文政 10-2-大 吉日	不明(二十六夜 塔)	愛染明王	酒々井町	上本佐倉神明大神社
45	1832	天保 3年	二十六夜塔	銘「愛染明王」	船橋市	坪井町太山堂前
46	1832	天保 3年	二十六夜塔	銘「愛染明王」	佐倉市	土浮入口道路脇
47	1835	天保 6-2-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	下市場 字北側
48	1836	天保 7-□-26	愛染明王供養塔	愛染明王	富里市	中沢 昌福寺
49	1838	天保 9年	二十六夜塔	愛染明王	船橋市	夏見二丁目日枝神社
50	1840	天保 11年	二十六夜塔	なし	佐倉市	小竹三叉路北西
51	1844	天保 15	二十六夜塔	なし	松戸市	栗ヶ沢 488 茂侶神社

52	1846	弘化 3-9-吉	二十六夜塔	なし	習志野市	実靱町 3 - 8 3 2
53	1848	嘉永 1	愛染明王供養塔	愛染明王	旧印旛村	松虫寺
54	1850	嘉永 3-10-26	二十六夜塔	なし	旧印西町	松崎山ノ下庚申塚
55	1852	嘉永 5-2-18	二十六夜塔	なし	旧印旛村	萩原 1424 庚申塚
56	1854	嘉永 7-4-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	米本 字松輪
57	1855	安政 2-11-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	大和田新田
58	1858	安政 5-10-吉	二十六夜塔兼道 標	なし	船橋市	豊富町路傍
59	1859	安政 5-4-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	米本 字松輪
60	1863	文久 3-9-26	二十六夜塔	銘「花染命」	旧印旛村	岩戸 137 付近墓地
62	1864	文久 4-2-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	米本 字松輪
61	1864	元治元	愛染明王供養塔	愛染明王	我孫子市	中峠不動尊
63	1872	明治 5	二十六夜塔	なし	旧本埜村	押付 143 路傍
64	1877	明治 10-5-吉	愛染明王供養塔	銘「愛染明王」	八千代市	吉橋高本 字宮ノ前
65	1877	明治 10-11	二十六夜塔兼道 標	なし	旧印旛村	瀬戸 子育地藏尊
66	1880	明治 13-11-26	二十六夜塔	銘「愛染明王」	旧印旛村	瀬戸 徳性院
67	1880	明治 13-4-26	二十六夜塔	銘「愛染明王」	旧印旛村	瀬戸 63 願定院
68	1881	明治 14-6-	二十六夜塔	なし	八千代市	大和田新田上神明社
69	1885	明治 18-11-吉	二十六夜塔兼道 標	なし	八千代市	吉橋高本八幡神社
70	1889	明治 22-4-23	二十三夜・二十 六夜塔兼道標	なし	旧印旛村	吉田 共同墓地
71	1895	明治 28-5-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	吉橋 高本 国蔵院
72	1896	明治 29-2-26	二十六夜塔	なし	船橋市	古和釜町東光寺
73	1920	大正 9-2-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	大和田新田上神明社
74	1922	大正 11-4-	二十三夜・二十 六夜塔	なし	旧本埜村	萩原 17 鳥見神社
75	1922	大正 11-11	二十六夜塔	なし	旧印旛村	萩原 1424 鳥見神社
76	1923	大正 12-5-	二十六夜塔	なし	船橋市	東船橋 茂呂神社
77	1953	昭和 28-11-26	二十六夜塔	なし	八千代市	大和田新田上神明社
78	1968	昭和 43-	二十六夜塔	なし	八千代市	大和田新田上神明社
79	2001	平成 13-4-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	大和田新田上神明社
80		年不明	二十六夜塔	なし	旧印西町	山王台 285 路傍
81		子-4-吉	二十六夜塔	なし	八千代市	米本 字松輪
82		年欠	愛染明王供養塔	銘「愛染明王」	八千代市	吉橋尾崎 大師堂